

令和7年度 学校経営計画

大田区立大森東中学校長
長 尾 諭

- 1 おおた教育ビジョン「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」
 - (1) 持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します
 - ①予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します
 - ②世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します
 - ③一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します
 - (2) 誰一人取り残さず、こどもの可能性を最大限に引き出します
 - ④学校力・教師力を向上させます
 - ⑤自分らしくいきいきと生きるための学びを応援します
 - ⑥柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります
 - (3) すべての区民が未来を担うこどもを育て、ともに学び続けます
 - ⑦学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります
 - ⑧生涯学び続ける環境をつくります

- 2 学校教育目標
進んで学び 人と街と自然を愛し たくましくさわやかに生きる人間を育てる。

- 3 目指す学校像
 - (1) どの生徒にとっても安心・安全で居心地のよい学校
 - (2) 上級生がお手本となる学校
 - (3) 生徒が主体的に活動出来る学校

- 4 具体的な目標と方策
 - (1) 知・心・体の調和のとれた生徒の育成
 - ① 確かな学力（知）
 - ア 「主体的・対話的で深い学び」、「わかる授業」の視点から授業改善を実践する。また、各教科で単元ごとや授業ごとに生徒アンケートを実施し、生徒の授業理解度を確認ながら授業を進める。
 - イ 評価内容・評価規準を明確にし、評価と指導を一体化させた授業を行う。学習評価については「生徒の学習改善につながる」よう、さらに習熟が必要な内容を具体的に生徒に説明できるようにする。
 - ウ 基礎・基本を定着させていくため、放課後・土曜日・長期休業日に学習指導講師を活用した数学、英語の補習授業を実施する。
 - エ 読書を通して生徒の視野を広げるとともに生徒自身を高めさせるようにする。そのために朝読書を通して読書の習慣を身に付けさせるとともに、朝読書を充実させ、落ち着いた環境で授業を開始できるようにする。また、読書学習司書を活用し、学校図書館を充実させ、読書好きの生徒を育てる。
 - オ 授業において積極的に ICT を活用し、生徒の学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。さらにリモート学習環境整備に向けた取組を行う。
 - カ 実用英語技能検定3級の取得率を向上させ、英語による読み書き、リスニング、会話といった包括的なコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ② 豊かな心（心）
 - ア 道徳の時間の他、教科・行事等の全教育活動を通じて道徳指導を行い、道徳の指導の指導項目のうち、「思いやり、感謝」「生命尊重」に重点を置き指導する。また、「ありがとう」が飛び交う雰囲気づくりをする。
 - イ ボランティア活動に積極的に参加させ、人に必要にされているという自己有用感を味わわせる。その取り組みとしてボランティアサークルを設立する。

ウ 教師自ら範となり、あいさつ運動を充実させる。元気よくあいさつができる生徒を育てていく。（月に1回、全教員による朝のあいさつ運動を行う。）

③ たくましい体（体）

ア 栄養士を中心とした給食指導を通して、食育に対する意識を高めさせ、保護者との連携を図りながら、健康づくりを進める。

イ 保健体育授業、運動部活動を通して体力の向上を図る。特にマラソン大会に向けて持久力を高める。

（2）夢と感動にあふれた学校

① 生徒主体の学校行事・諸活動

ア 体育祭、合唱祭、宿泊行事、校外学習等の学校行事を生徒に主体に取り組みせ、感動と成就感を味わわせる。また、その努力に対し賞賛していく。

イ 連合行事や各種コンクールに参加する生徒を全校朝礼等で全生徒に紹介するとともに活躍した生徒・部は濱端だより等に載せ、意欲的に様々な活動に取り組みさせる。

② 部活動の充実

ア 部活動ガイドラインに従い、時間・場所を工夫しながら部活動を充実させる。

イ 部活動指導員を積極的に活用するとともに、従来の外部指導員もしっかり活用し、部活動に意欲的に取り組ませる。

（3）美しく、安全で、「居心地のよい」学校

① 「居心地のよい」学級・学年・学校づくり

ア 生徒同士または生徒と教師の人間関係を良好にするために、コミュニケーション能力を向上させる構成的グループエンカウンター等の取り組みを意図的・計画的に行う。また、学級集団調査（WEBQU）年2回実施、結果を分析し、居心地の良い学級づくりを推進する。

イ 教職員が基本方針を確認し合い、厳しくもあたたかい指導につとめ、学校の組織をあげて生徒の規範意識の向上と健全育成に努める。なお、指導時においても人権に配慮し、生徒の心情に寄り添うようにする。

ウ いじめの現状把握のために年間3回以上のいじめ調査を行い、いじめに関わる課題については関係する生徒全員から聞き取りを行った上解決に向けて取り組む。

エ 問題行動に対しては、教員間の情報共有と共通理解の下、迅速・適切な対応を行う。その際、生徒理解に努め、生徒の心に響く指導を心がける。

オ 不登校・不適応生徒に対しては、生活指導部が中心となり、校内支援委員会が保護者、SCや関係諸機関と連携を図りながら適切な対応を行う。また、組織的な校内別室を行い、該当生徒の教室復帰に向けて取り組む。

カ 特別な支援が必要な生徒に対して、校内支援委員会が中心となり、個々に応じた手だてを考え組織的に対応する。また、特別支援教室の運営がスムーズにいくように校内支援委員会で情報交換を行い、共通理解をしっかりと行う。

② 教育環境の充実・整備

ア 掲示物等を工夫し、生徒にとって居心地のよい教室環境をつくる。

イ 委員会活動の取り組みを通して、生徒の意識を高めながら環境美化の徹底を図る。

③ 安心・安全な学校

ア 安全教育の充実を図るとともに、事件・事故発生時に迅速・適切な対応がとれるようにする。

イ 防災教育の充実を図るとともに、災害時の対応の見直しを図り、生徒・保護者・地域に周知する。

（4）生徒が誇りをもち、保護者・地域に信頼される学校

① 生徒の賞揚（ほめる教育）

ア 生徒の良さや頑張りをほめる教育を浸透させ、自信や自尊感情をはぐくむ。対外的な成果はすべて朝礼等で表彰する。

イ 上級生が活躍できる場面を多く設定する。

ウ ボランティア活動等ほめられる場を多く設定する。

② 学校からの発信・広報、保護者・地域との連携、小中連携

ア 濱端だより、学年だより、掲示物、ホームページ等で学校から積極的に発信し、保護者・地域等への広報に努める。

イ 保護者・PTAと良好な関係を続ける。地域の会合や行事に可能な限り参加する。

ウ 小学校との連携を効果的に進める。